

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2392200081		
法人名	株式会社サンケイ		
事業所名	グループホーム笑明かり・笑明かり 笑明かり		
所在地	愛知県一宮市浅井町尾関字西五輪26番地		
自己評価作成日	令和4年12月31日	評価結果市町村受理日	令和5年4月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200081-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2392200081-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号
聞き取り調査日	令和5年2月24日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「生きているって素敵と思える家に」という理念のもと、利用者は職員と協力しながら今できる力を継続できるように、自分で出来る事をして生活している。コロナ禍の為、外出や地域交流、施設の行事等が中止になっているが、散歩や昔ながらの行事を大切にして過ごしている。一人一人個室でプライベートな時間を確保しつつ、共に生活している方々と散歩やレクリエーションなど交流しながら過ごしている。家族とは、電話やオンライン面会、お便り、ブログやSNS等を通じ、本人の様子をお届けできるようにしている。一人一人の想いに寄り添い、個々のペースで生活できるようにしている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月ミーティングで理念を確認し意識の統一を図っている。管理者と職員は理念を共有し、実践に繋がるように努めている。「生きてるって素敵」と思える家に。を頭に入れ、その人らしく過ごせるよう行動している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	散歩時、地域の方に積極的に挨拶を行い畑仕事を教えて頂いたり、お花を頂く事もある。児童館との交流や月1回資源回収に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度は地域の中学生ボランティアを受け入れ認知症の理解や介護について学んでもらう機会があった。児童館の交流を継続し、地域の人へ認知症の理解を深めるよう支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染症の為、書面上の開催になっている。書面や電話を通して意見交換を行い、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	日頃の連絡は主に管理者やケアマネジャーが行い協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修で学ぶと共に、身体拘束等適正化検討委員会にて目標を定め評価している。目標をユニット内で共有し、ヒヤリハットの検討、職員間で声を掛け合い、日頃から身体拘束への意識を持ちケアに努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	内部研修で学ぶと共に、委員会に日々のケアを振り返る機会を設けている。ヒヤリハットの検討、職員間で声を掛け合い、日頃から虐待防止への意識を持ちケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度や法律等に対して学ぶ機会はない為、知識等を深めていく必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、管理者が不安や疑問がないよう十分な説明を行っている。ご家族からの不安や疑問があれば管理者・リーダーが迅速な対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の要望は日頃の聞き取りから実施し、家族からは運営の反映に努めている。ご家族からは電話・面会時・アンケート等にて意見・要望を伺い運営に反映できるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティング・委員会・行事等、職員の意見をもとにケア等に反映させている。意見が言えない方にも書面で聞く等をしている。職員がやりたい事を行えるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者とリーダーは職員と年2回面談し目標を決めている。定期的に振り返りをして、各自が向上心を持って働けるように環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修や外部研修への参加を行っている。人事考課などで個々の目標設定をし振り返り等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管理者がネットワークを運営し、同業者と意見交換や研修等に参加できる体制がある。事業所内でも、ミーティングや勉強会等で交流を深め、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人に寄り添い、不安・要望・想いを聞き対応している。利用者との信頼関係を築けるように、安心できる環境や統一したケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の想いや意向を十分に聴きながら、サービスの導入をしている。不安に想っている事・要望等を理解し、職員間で情報を共有し、信頼できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人・家族の想い・希望を伺い、管理者と職員で話し合っている。本人が「その時」に必要な支援を見極めながら、他サービスへの利用も相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を共に過ごし、昔話や人生の先輩としての意見などを聞き、喜び・悲しみ・不安などを共有し合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が来所時には日々の様子を報告し、お便りや電話やオンライン面会などを活用しご本人の様子も知ってもらい関係性を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	電話で本人と話をしたり、手紙等を送り関係が途切れないようにしている。面会禁止中には電話・オンライン・手紙等を積極的に支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人ひとりの個性や利用者同士の相性を考慮し、孤立しないよう関係性を築けるように努めている。孤立しないよう職員が間に入り支え合えるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスが終了しても、ご家族様の相談があれば管理者に報告し情報を共有し対応している。ご家族から様子など報告して下さる関係が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動から気づきを職員間で話し合い、本人の想いに沿ったケアを行っている。一人一人の想いの把握に努め、汲み取れるように、変化を見落とさないように心がけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートの活用や家族、本人から話を聞き、これまでの生活の中で大切にしてきた事をケアに活かせるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来ることや本人の状態や意欲などを把握し、ケアに活かせるように努めている。状態変化を見逃さないよう情報共有をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の状況を把握し、本人・家族・医師・看護師等の要望や意見を取り入れながら、職員間で毎月のミーティングで一人一人について話し合い、今必要な介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別記録に、介護計画で実施できた事、気づき等記載している。ミーティング時に介護計画の実践や見直しについても話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人・家族の要望や想いを聞き、必要なサービスの提案や対応ができるようにしている。管理者・職員で話し合いをしながら、他のサービスも含め柔軟に対応できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍で、店舗などの外出は出来ていないが、散歩に行き地域の方と交流を深めたり、移動販売で週1回買い物をしている。今後も、地域の関わりを断ち切らないようにしていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月1回往診があり、健康管理を行っている。体調変化等、医師・看護師・家族・本人と相談して受診・医療機関等決めて、必要時付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日常の関わりの中で、何か気づきがあれば看護師に相談して適切な対応が出来るように努めている。情報共有を行い安心して生活ができる努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、速やかに情報提供を行い、本人・家族が安心して治療ができるようにしている。早期に退院ができるように連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化や終末期について本人・家族・管理者・リーダー・職員で話し合い、事業所としてできる事を考えながら、本人にとって一番良い生活が出来るように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	内部研修で、急変や事故発生時の対応を学んでいる。感染時のシミュレーション等も行っているが、不十分で繰り返し訓練が必要である。医師・看護師との連携を行い対応していく事が求められる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	三ヶ月に一回、災害の場面を変えて訓練をし、訓練内容が職員全員に共有出来るようにしている。年に1度事業所全体で、昼・夜想定訓練を行い、昼夜問わず安全に避難できるような体制作りを努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の立場になり、プライバシーの配慮や言葉遣いや態度を意識して対応している。職員間でも注意し合う関係作りにも努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常生活の中で、常に本人の希望を聴きながらケアをしている。想いを汲み取り、自己決定が出来る場面作りをしている。思いを職員間で共有し介護計画等に活かしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	その人らしい生活が出来るように、一人一人に寄り添いながら支援している。希望の汲み取りに努め、自由な生活の場になるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自分で好きな服を選んだり、訪問美容室でカットやカラーをしたり、一人一人の身だしなみに配慮している。いつまでもおしゃれを楽しめるように支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日、食事の準備や片づけを共に行っている。季節感・行事に合った食材や彩に配慮している。モーニングの実施や、ホットプレートを活用、手作りおやつをして、楽しむ事が出来るように支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人の食事・水分量の把握に努め、量の調整や体調に合わせて食事形態を変えている。毎月、体重測定を実施し体重の増減にも気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後一人一人の力に合わせ歯磨きを行っている。週1回の訪問歯科利用し、情報共有し日々のケアに活かしている。月に一度勉強会も行っている。嚥下機能が低下しないように、嚥下体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	トイレで排泄が出来るように、一人一人に合わせて声掛けをしている。動きを観察し行きたい時を見逃さないようにし、全員がトイレで排泄できるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	乳製品・食物繊維豊富な食材の使用や、こまめな水分摂取に心がけている。体操や散歩等運動を進め、自然排便が出来るようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	1日おきに入浴している。時間帯・温度、体調や気分等一人一人に合わせて支援している。入浴剤・苜蒲湯やゆず湯等、入浴時間がリラックスできるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中活動量を増やしている。休息は好きな時に好きな場所で出来るようにしている。音や照明、室温に配慮し、一人一人に合わせて安心して眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	月1回の往診時、医師や薬剤師と相談し薬の理解を深めている。本人の変化を見逃さないように観察し、服薬時、名前・日付等声出し確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	運動や家事等、一人ひとりの力を活かせる喜びを感じる事が出来るように努めている。本人・家族の話から楽しみごと等を知る事に努め、日々を過ごせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の為外出は行けていない。散歩で季節の変化や景色を見たり、施設の畑仕事などをして、楽しめるようにしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	移動販売時、好きな物を選び、会計が出来るように支援している。精算時、共に計算しお金に触る機会を作っている。自身でも所持している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族や親しい人との電話や手紙のやりとりやオンライン面会を行っている。関係が途絶えないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	施設内は落ち着きのある空間になっている。清潔に心がけ、温度・湿度に気を付けている。季節感のある壁画や飾り、イベント時の写真を掲示している。場面に合わせて音楽を流し、居心地よく過ごせるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フロア内でテレビを見たり、テーブルを囲んで気の合う方と会話をしたり、一人ひとりが自由に過ごせれるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具・布団・テレビ・洋服・家族写真などを持参している。一人一人の空間を大切に、家にいるように安心し、心地よく過ごせる居室作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	館内バリアフリーになっており、手すりが多い。台所は低く調理しやすい。居室や椅子やテーブルに自分の名前が分かるようにし混乱がないようにしている。		